

事業者のご紹介4

(事業再開等を果たされた事業者のみなさま)

令和元年12月

福島相双復興官民合同チーム

(公益社団法人福島相双復興推進機構)



<はじめに>

私たち福島相双復興官民合同チームは、これまでに約5,300の事業者の方々、約1,700の農業者の方々の訪問・支援させて頂いておりますが、そのなかで、復興やまちづくりに熱い想いを持つたくさんの方々のお話をうかがうことができました。

事業再開や開業に当たっては、多くの事業者がさまざまな悩みや苦勞を抱えながらも、「相双地域の復興のために」「愛する故郷に活気を取り戻すために」という想いのもと、着実に歩みを進めておられます。

その方々の取組みをほんの一例ではございますが、冊子としてとりまとめさせて頂きました。今回、第4弾として22の事業者・農業者をとりまとめさせて頂きましたので、ぜひご一読ください。

この冊子以外にも、奮闘する多くの事業者をホームページやフェイスブックでご紹介しておりますので、こちらも併せてご覧ください。

ホームページ:

<https://www.fsrt.jp/activity>

QRコード



フェイスブック:

<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/?fref=ts>

QRコード



目次

頁	事業者・農業者名	※	現所在地	電話番号	ホームページ・フェイスブック
P 1	アクツ電機（有限会社アクツ）	※浪江町	浪江町大字権現堂字蛭子町38-1	0240-35-2933	
P 2	株式会社 S K ブラスト	※飯舘村	飯舘村前田字古今明220	0244-42-1083	http://satoindustry.sakura.ne.jp/
P 3	株式会社 江井 鋳造所	※南相馬市	南相馬市小高区上浦字中村迫436	0244-44-3222	http://enei-chuzosho.jp/
P 4	大久保外内復興組合	※飯舘村	飯舘村飯樋字大平31	090-7330-2115	
P 5	おはぎとおそうざい・ふるうちの台所 (合資会社古内商店)	※南相馬市	南相馬市小高区大町1-34	0244-44-2009	
P 6	カフェ・アマゾン (株) コドモインターナショナル)	※川内村	川内店：川内村大字上川内字町分102 Jヴィレッジ店：楡葉町山田岡美シ森8 Jヴィレッジセンター内1階	0240-23-6777	http://amazon-cafe.jp/
P 7	Karite(カリテ)	※双葉町	大阪府池田市城南3丁目6-1-102	080-9178-3780	https://karite.shop/
P 8	菅野 勝久	※川俣町	川俣町山木屋字秋葉森山12	090-4312-7534	
P 9	株式会社 観陽亭	※富岡町	いわき市平沼ノ内代ノ下90	0246-39-3383	http://kanyotei.co.jp/
P 10	Creamhouseアトリエnobuya (横田菓子店)	※大熊町	いわき市中央台高久1-13-2	0246-38-8491	https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/posts/2780324421981219
P 11	黒田 サヨ子	※楡葉町			

目次

頁	事業者・農業者名	現所在地	電話番号	ホームページ・フェイスブック
P 1 2	株式会社紅梅夢ファーム	※南相馬市 南相馬市小高区蛭沢字藤沼160	0244-44-6200	
P 1 3	坂本理容所	※飯館村 川俣町飯坂字下中居26-5	024-573-0314	
P 1 4	株式会社松月堂	※南相馬市 南相馬市小高区上町 1-17	0224-23-3636 (四葉店)	
P 1 5	医療法人社団養高会 高野病院	※広野町 広野町大字下北迫字東町214	0240-27-2901	https://takano-hosp.jp/
P 1 6	東北アクセス株式会社	※南相馬市 南相馬市原町区深野字庚塚346-1	0244-23-2964	https://tohoku-access.com/
P 1 7	株式会社新妻有機農園	※広野町 広野町大字折木字東下40-3	0240-27-3352	https://niitumanouen.base.shop/
P 1 8	株式会社 宏昇製作所	※楡葉町 楡葉町南工業団地B-3	0240-25-4100	http://luminax.co.jp/
P 1 9	ヤマダヤ	※富岡町 新潟県柏崎市西山町和田802-4	0257-48-2656	https://www.facebook.com/yamadaya.nishiyama/
P 2 0	海・鮮・料理よしだ	※楡葉町 楡葉町大字井出字木屋126-1	0240-25-2253	https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/posts/3151476934865964
P 2 1	ラフィットとみおか	※富岡町 富岡町大字小浜字中央曲田土地区画整理事業地内9-1-13	0240-22-4721	https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/posts/2903677746312552
P 2 2	渡辺 徳子	※田村市 田村市都路町古道字新町 6 2	080-1668-0592	

アクツ電機（卸売業、小売業・浪江町）



事業主の阿久津さんと奥様



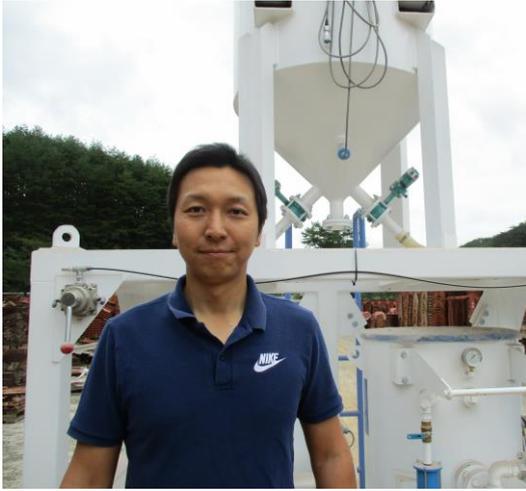
浪江町の新たな店舗



店内陳列の家電

- 「アクツ電機」は、浪江町で“頼れる電器屋さん”として長年愛されてきました。しかし、震災により休業。事業主の阿久津さんは避難先を転々とし、秋田県内で臨時職員として働くなどしていました。
- 平成24年5月、南相馬市原町区の仮設事務所で営業を再開します。なじみのお客さまからの注文が次々に入り、これから帰還してくる住民のためにもと、浪江町での再開を決めました。
- 令和元年6月21日、8年ぶりに町内で店舗を再開。町内の家電店再開は、「アクツ電機」が初めてとなります。これからもモットーである、「あると安心する地元の電器屋さん」として、浪江町の復興を後押しします。

株式会社SKブラスト（製造業・飯舘村）



代表取締役の佐藤さん



移動可能な循環式ブラスト機



メンテナンスされた鋼材

- 平成元年に先代の佐藤孝一さんが創業した「佐藤工業」。大型ショットブラスト設備（砂・鉄粉による研磨設備）を備え、消波ブロック製造のための金型保管、ケレン作業（下地処理）・塗装作業を請け負い、長年にわたり、海岸・河川工事に携わってきました。
- 震災により一時休業しますが、復旧・復興工事に寄与したいとの思いから、平成24年9月に事業を再開しました。再開後は事業を拡大し、移動可能な循環式ブラスト機及び回収機を導入し、橋などの鋼構造物のケレン作業・塗装作業を手掛けるようになりました。
- 令和元年6月21日、「株式会社SKブラスト」に改組。代表取締役には長男の健太さんが就任しました。福島県商工会青年部連合会理事として活躍され、事業意欲旺盛な健太さん。さらなる飛躍を誓います。

株式会社 ^{えねい}江井鑄造所（製造業・南相馬市小高区）



代表取締役の江井さん



写真上：工場外観（再建後）
写真下：工場内部



F1型鑄造機と鑄造品

- 「株式会社江井鑄造所」は、明治時代初期の創業で140年以上続く老舗鑄物メーカーです。震災による地震・津波被害は免れたものの、避難により一時休業を余儀なくされました。
- 震災後すぐに、避難先の郡山市で同業者の工場を間借りして操業を再開。震災から約1年後には小高工場（現工場）に戻り、生産量も徐々に回復していきました。
- 平成30年7月、震災により途切れた販売ルートを繋ぎ、新規開拓の成果も実り、売り上げも向上してきた矢先、工場が全焼する災難に見舞われました。しかし、江井社長の工場再建への並々ならぬ思いから、工場を改修し再建を果たしました。現在は社員の多能工化や評価技術を含めた取組を積極的に進め、F1型鑄造機による多品種少量生産の即応体制を確立しています。

おおくほよそうち
大久保外内復興組合（農業・飯舘村）



代表の長正(ながしろう)さん



エゴマの収穫作業



オーガニック栽培のエゴマ

- 「大久保外内復興組合」は、避難中の農地の保全活動を行うことを目的に、平成29年4月に設立された農業復興組合です。
- 平成30年より雑穀類の栽培や加工の実証事業を行っており、令和元年からは販売にも取り組んでいます。また、化学農薬を使わないオーガニック栽培にも新たに取り組んでいます。「大切に」「じっくりと」「心をこめて」「時間をかけて」「手間暇を惜しまず」といった意味で使われる「までい」という福島県の方言の通り、高齢者になっても働ける“手仕事づくり”を進めています。
- 共同作業を通じ、避難で壊れたコミュニティを少しずつ再生し、地域農業の復興により農地を守るべく「一歩ずつ、一歩ずつ前へ。」と、粘り強く計画を着実に実行し、活気づいている状況です。明るく元気に作業する姿は復興の道しるべとなり、絶えない笑い声が阿武隈高地に響き渡ります。

おはぎとおそうざい・ふるうちの台所（飲食料品小売業・南相馬市小高区）



店長の古内さん(左)と
従業員の皆さま



店舗外観



評判の高いふるうちのおはぎ

- 「合資会社古内商店」は、大正10年に南相馬市小高区において、先々代の古内 武さんが食料、雑貨品販売を主に創業した、業歴90年を超える老舗でした。昭和42年「食品スーパーふるうち」としてスーパーマーケット形態に転換し、地元から愛されてきました。
- 震災により避難を余儀なくされ、以後、スーパーは休業状態に。廃業も検討しましたが、小高区の避難解除を機に、現代表者である古内 栄治さんの奥様である慶子さんを中心に、「帰還住民が気楽に立ち寄れるコミュニティの場」を目指し、再開を決意しました。
- 令和元年8月、手作りの田舎料理を提供する惣菜店「おはぎとおそうざい ふるうちの台所」を開業。震災前から「ふるうちのおはぎ」として評判の高かった“おはぎ”や、ひじき煮、切り干し大根の煮物などを提供。地域住民のコミュニティの場として賑わっています。

Café Amazon [カフェ・アメイゾン] 川内店・Jヴィレッジ店 (飲食サービス業・川内村、楡葉町)



代表取締役の岩本さん



川内店ガーデンモニュメント (建築家、隈研吾氏監修)



Jヴィレッジ店 (テラス席)

川内店とJヴィレッジ店



タイから直輸入されたコーヒー豆を使用



コーヒーとオリジナルカレー

- 「カフェ・アメイゾン」は、タイ国内で約2300店舗以上を展開する人気のコーヒーショップで、「福島への再生に向けた温かい光を照らす場所でありたい」という思いを込めて、平成28年11月に日本進出1号店として川内店、平成31年4月には楡葉町のJヴィレッジ店をオープンしました。
- 同店を運営する(株)コドモインターナショナルの岩本代表は、地元の皆さまと相双地域にいられた方が集える場所をつくりたいと、出店を決断。「福島から世界へ」点から面へ地域の連携をつないでいきたいとの強い信念をお持ちです。また、タイの少年たちの洞窟救助活動(平成30年)でも活躍した「蓄光タイル(ルナウェア)」を製造している、株式会社コドモエナジーの社長でもあります。
- オリジナルカレーやタイ料理定番のガパオライス、カオマンガイには川内村をはじめとした福島県産の食材を使用し、福島の食材の良さを発信しています。Jヴィレッジ店には、天然芝のグラウンドを一望できる開放的なテラス席もあります。ぜひお越しください。

Karite (カリテ) (小売業、学習支援業・双葉町→大阪府池田市)



事業主の八津尾さん(中央)



店舗入口



店内の様子

- 事業主の八津尾さんは、平成4年8月から双葉町でピアノ教室を開講していましたが、震災により、実家のある札幌市に避難を余儀なくされました。
- 避難生活が落ち着き始めたころ、「双葉町に帰って、子供たちにピアノを教えたい」という思いが芽生えます。双葉町に帰還する前に、どこかで事業再開できないかと事業プランの検討を重ねた結果、平成31年4月、ご息女夫婦が暮らす大阪府池田市で、子どもも大人もほっとできる時間を過ごせる小さなお店「Karite(カリテ)」をオープンさせることができました。
- 絵本、児童書、子育て・生活まわりの本や雑貨が並んだショップスペースの奥には、くつろぎながら絵本が読めるカフェスペースを用意。親子で絵本と音楽にも触れ合え、ピアノも学べるお店となっています。

菅野 勝久さん（農業・川俣町山木屋地区）



生産者の菅野さん



栽培中のアンズリウム



色鮮やかなアンズリウム

- 菅野さんは震災前、兼業農家として食用米と葉タバコ、小菊などを栽培していましたが、震災により避難を余儀なくされました。
- 平成29年3月、山木屋地区は避難指示解除になりますが、農業の再開に不安を抱いていました。そんな中、アンズリウムのポリエステル媒地栽培プロジェクトと出会い、花卉栽培の経験を生かして、アンズリウムの栽培を行うことを決断しました。
- 慣れない栽培方法に当初は戸惑いもありましたが、町の復興と農業再生に尽力したいという強い思いをもって取り組み、今では立派なアンズリウムが育つようになりました。花の最盛期は春から秋にかけて。川俣町の新たな名産品となるよう、“復興の花”を大事に育てています。

株式会社観陽亭（飲食サービス業・富岡町→いわき市）



社長の遠藤さん



観陽亭外観



まごころのこもったお弁当

- 社長の遠藤さんは震災当時、富岡町の「ホテル観陽亭」の支配人として働いていましたが、震災によりホテルは休業を余儀なくされました。震災後、復興作業にあたる方々のために、お弁当事業を知人と共に経営。その後、平成26年に「株式会社観陽亭」を設立しました。
- 双葉郡内の福島復興関係事業者や、いわき市内の企業・学校等にお弁当を販売。現在は、ホテルの食事や各種イベントへの仕出しにも力を入れています。
- 安心・安全な食事を提供するため衛生面はもちろんのこと、食材毎の温度管理を徹底しています。また、予算に合わせた料理の作成や希望場所への配達等、ニーズに合わせたサービスとスタッフのまごころこもったお弁当は、お客さまに大変喜ばれています。

Creamhouse アトリエnobuya (洋菓子製造業・大熊町→いわき市)



パティシエの横田さんと奥様



店舗外観



ショーケースに並ぶスイーツ

- 横田さんご家族は、双葉郡大熊町と富岡町で人気の洋菓子店「菓子工房 yokota」を営んでいましたが、震災により東京や郡山市への避難を余儀なくされました。
- 平成24年12月1日、ご夫妻のお菓子作りへの熱い情熱と、以前のお客さま方からの再開を望む声を受け、いわき市中央台に「Creamhouse アトリエnobuya」(クリームハウス アトリエ ノブヤ) をオープンしました。
- 「お客さまの笑顔と幸せのひとときのためのお手伝い」をコンセプトに、今そのとき美味しいものを提供できるよう、一つひとつのお菓子を丁寧に作り上げています。広いショーケースには、ケーキと焼き菓子、手作りチョコレート、マカロンなどがズラリと並びます。店内にはイートインスペースもあり、ゆったりくつろぎながら美味しいスイーツをいただくことができます。

黒田 サヨ子さん（農業・檜葉町）



生産者の黒田さん



黒田さんのほ場(檜葉町)



ブイチェーンネモト
地産地消コーナー

- 黒田さんは震災以前から、日々のお仕事の傍ら、檜葉町のほ場で作った野菜を檜葉町や富岡町の直売所で販売していましたが、震災により一時、営農の中断を余儀なくされました。
- 震災後、平成30年から営農を再開。80アールの農地に多品目の野菜を作付けし、自宅近隣の広野町ニッ沼直売所で販売していました。しかし、直売所は手狭なため、収穫した野菜の一部しか出荷することができず、まとまった量の販売先を模索していました。
- 平成30年11月、地元スーパーのブイチェーンネモト(檜葉町笑ふるタウン内)が地産地消コーナーの開設を希望され、黒田さんとのマッチングが実現。黒田さんは、里芋やほうれん草といった野菜をほぼ毎日出品するなど精力的に取り組み、ネモトからも売上げが好調と、高い評価をいただいています。

こうばいゆめ
株式会社紅梅夢ファーム（農業・南相馬市小高区）



代表の佐藤さん(右下)と
従業員の皆さま



紅梅夢ファームのほ場風景



農業用ドローンによる
除草剤散布作業

- 「紅梅夢ファーム」の佐藤代表は、震災前から小高区の地域営農の中核的役割を担っていました。震災後、いち早く地域の営農再開に向けて取り組み、担い手確保が難しい中、集落営農組織をまとめ、効率的に地域営農を推進するために、平成29年1月、同ファームを設立しました。
- 令和元年度は、43ヘクタールで水稲・大豆・ナタネなどを生産。熟練労働者の確保が困難な中、将来的には500ヘクタール規模への拡大を目指しています。また、地元の農業高校から新入社員を積極的に採用しています。
- ロボットやIT技術の活用により、生産性向上・高品質化を図る「スマート農業」にも意欲的であり、令和元年度から農林水産省の「スマート農業技術の実証・開発プロジェクト」に参画。福島県をはじめ各機関と連携しながら、実証に精力的に取り組んでいます。

坂本理容所（理容業・飯舘村→川俣町）



事業主の坂本さんと奥様



店舗外観



店内の様子

- 「坂本理容所」は、飯舘村で4代続く理容店でした。震災当日は、普段と変わらずお客さまの理髪や髪染めをしているところ被災し、停電により店内もお客さまも大変混乱したことから、営業を中断せざるを得なくなりました。
- 震災後は福島市内に避難しますが、平成23年10月、川俣町の仮設店舗で営業を再開しました。理髪だけでなく、話をしに店舗に寄ってくれる方もいらっしや、飯舘村の馴染みの方々をはじめ、川俣町のお客さまなど、多くの方々に支えられて営業してきました。
- 令和元年7月には、仮設店舗と同じ敷地内に自店舗が完成し、新たなスタートを切りました。店長の坂本さんはお客さまに親切丁寧に接し、店舗が憩いの場となって、気分よく帰っていただけるよう努めています。

株式会社松月堂（飲食料品小売業・南相馬市小高区）



社長の横川さん(右)と専務



再開した小高本店



新商品の「野馬追焼き」

- 「松月堂」は、創業から100年以上続く老舗のお菓子屋さんで、地元のみなさまから親しまれてきました。震災により、横川社長一家は避難を余儀なくされますが、社長と2人のご子息は、「南相馬で再開する」という強い気持ちを持っていました。
- 平成25年6月、創業地の小高区から原町区へ本店の機能を移すことになりながらも、和菓子で復興を支えるため、営業を再開。順調に売り上げを伸ばしていきます。そして、令和元年8月、8年4カ月の時を経て、新商品と共に本店のあった小高に戻ってきました。
- 新商品は、「福島イノベーション・コースト構想推進機構」との共同開発で生まれた「野馬追焼き」。ドローンと騎馬武者がデザインされた和菓子で、きなこあん、こしあん、かぼちゃあんの三種類を用意。地元の食材のかぼちゃ、きなこを使用しています。看板商品の焼き菓子「浮城（ふじょう）」や洋菓子も取り揃えています。

医療法人社団養高会 高野病院（医療、福祉・広野町）



理事長の高野さん



病院外観



認知症予防プログラムの一コマ

- 「高野病院」は、昭和55年に広野町で開設以来、地域医療を支えてきました。震災により広野町は全町に避難指示を出しますが、高野英男院長（当時）は避難しないことを決断し、患者さんに寄り添い、診療を続けました。
- 内科、神経内科、消化器内科、老年内科、精神科を有し、頭痛外来、内視鏡外来、もの忘れ外来、メタボ外来などの専門外来の他、平成30年11月には認知症治療病棟を開設。毎月第2、第4水曜日には、認知症カフェ「みかんカフェ」を病院内で開催し、認知症予防にも取り組んでいます。
- 平成30年、自宅での療養生活をサポートする「訪問看護ステーションたかの」を開設。高野理事長は、「地域の皆さんが、住み慣れた家で自分らしく生活できるように、今後も可能な限りお手伝いをさせていただきます」と、地域医療の発展を支え続けています。

東北アクセス株式会社（運輸業・南相馬市原町区）



代表取締役の遠藤さん



本社・南相馬バスターミナル



「相馬野馬追」ラッピングバス

- 「東北アクセス」は、地元バス会社に勤務していた遠藤社長が、前身の「はらまち旅行」を引き継ぎ、平成16年に運営を開始。震災前は、主に貸し切りバスの運行をしていました。
- 遠藤社長の相双地域復興への想いは強く、震災直後から、南相馬市と福島市や仙台市を結ぶ路線バスを運行する他、地域のためにスクールバスも運行してきました。平成31年3月には、「南相馬市の交通・宿泊・観光の情報を発信するポータルサイト」をインターネット上に開設し、相双地域を訪れる方の利便性向上にも取り組んでいます。
- 平成30年10月、常磐自動車道南相馬 I C 入り口に大型のバスターミナルが完成しました。令和元年7月には、「南相馬・双葉ライナー」の運行を開始。J R 常磐線原ノ町駅前を出発し、南相馬市役所、南相馬バスターミナル、常磐富岡 I C を経由し東京駅鍛冶橋バス駐車場に、「相馬野馬追」のラッピングが施された車両が快適に結びます。

株式会社新妻有機農園（農業・広野町）



代表者の新妻さんと
令和初のあひる米



アヒルが駆け回る水田



日本酒「初代 鶯(あひる)」

- 新妻さんは、震災前から水稻中心に農業を営んでいましたが、震災により一時避難を余儀なくされました。その後、平成26年より本格的に営農を再開され、農業法人「株式会社新妻有機農園」を設立しました。
- 綺麗な水と肥沃な土壌で、特別栽培米のコシヒカリとミルキーQueenを作付けする他、「アヒル農法」（水田に放したアヒルが動き回り攪拌することで雑草の発生を防ぎ、害虫を食べてもらう効果を期待）による、有機栽培農法での米（あひる米）栽培にも力をいれています。
- 美味しいお米づくりをはじめ、自家米(コシヒカリ)を使った特別純米酒「初代 鶯(あひる)」や、ソーセージなどの加工品造りも実践しているほか、県外のマルシェやイベントにも積極的に出店して、広野産米の販路拡大に精力的に取り組んでいます。

株式会社宏昇製作所（製造業・榎葉町→埼玉県さいたま市）



代表者の斎藤さん



榎葉南工業団地の新工場



スタイリッシュな家具

- 「株式会社宏昇製作所」は、昭和36年に設立。榎葉町の福島工場を生産拠点として、取引先やエンドユーザーの皆さまから信頼される家具メーカーでしたが、震災のため福島工場の従業員は避難し、生産ラインの停止を余儀なくされました。
- 代表者の斎藤さんは、多くのお客さまから注文を受けており、早く製造を開始したいとの思いから再開場所を模索。平成23年5月に、さいたま市岩槻区に埼玉工場を設け、家具製造を再開しましたが、家具を保管しておくスペースが無いことに悩んでいました。
- 榎葉町への帰還は難しいと考えていたなか、町の後押しもあり、令和元年6月、榎葉南工業団地に新工場を完成させることができました。広い工場内には、家具の保管スペースも確保でき悩みも解決。スタイリッシュな家具が製造されています。

ヤマダヤ（手芸用品、ミシン販売、修理業・富岡町→新潟県柏崎市）



事業主の石原さん



店舗の外観



店内の様子

- 「ヤマダヤ」は、先代が昭和33年に富岡町で創業して以来、60年の歴史を誇る手芸用品とミシン販売の老舗でしたが、震災により、現事業主の石原さん一家は、親類が暮らす新潟県柏崎市への避難を余儀なくされました。
- 手芸店の二代目として育った石原さんは、お店を継いで以来、30年にわたり手芸専門店を営んできました。震災後には「一級縫製機械整備技能士」（国家試験）を取得。避難先で業務用ミシンのメンテナンス業務を請け負うなど、一部業務を再開し、平成29年3月には、念願の手芸ショップ「ヤマダヤ」をオープンしました。
- 「お客さまの作りたいものを、いつでも作れる」、「作る楽しみを応援してくれる」お店として、手芸愛好家から親しまれています。また、手芸教室を開催するなど、地域に根付いた活動も積極的に行っています。

海・鮮・料理よしだ（食堂、居酒屋業・楢葉町）



店主の吉田さん



店舗外観



おすすめの本マグロ丼

- 店主の吉田さんは震災前、楢葉町にて「吉田魚店」の名で、50年以上の歴史がある老舗の鮮魚店兼居酒屋を経営していましたが、震災により避難と休業を余儀なくされました。
- 平成23年10月、避難先であるいわき市中央台にて、ご友人とスーパー「くんちえ広場」を開店し、避難された町民の皆様の食を支えてきました。
※「くんちえ広場」は平成30年3月に閉店
- 令和元年5月30日、「町内外の方へ美味しい海鮮料理を味わってもらうことで、故郷へ貢献したい」という思いから、地元楢葉町に戻り、竜田駅西口にて海鮮料理をメインに提供する「海・鮮・料理よしだ」をオープン。お店のおすすめは、お刺身定食や本マグロ丼等の海鮮料理で、どれも新鮮でボリューム満点です。

ラフィットとみおか（フィットネスクラブ・富岡町）



オーナーの大友さん



フィットネスクラブ(1階)



トレーニングマシン

- オーナーの大友さんは震災前、富岡町で生け花教室を開いていましたが、震災によりいわき市などへ避難しました。マラソン大会に年40回以上参加するスポーツウーマンでもある大友さんは、避難生活が続く中、体を動かす事の大切さを実感しました。
- 震災後、親族が経営する建設会社で従業員と共に復興に向けて尽力する中、作業員や帰還した住民が体を動かせる施設が少なく、運動不足になっている事を痛感。思いきってフィットネスクラブの開設を決意し、健康運動実践指導者の資格も取得しました。
- 「ラフィット」の意味は、「楽（ラク）・楽しく」「軽い（ライト）」のそれぞれの頭文字と「フィットネス」を掛け合わせた造語で、「気軽に健康運動をしよう」という意味が込められています。室内にはトレーニングマシンを12台設置。ダイエットや筋力アップなど、利用者それぞれの目的にあったトレーニングを行う事ができます。

渡辺 徳子さん（農業・田村市都路町）



生産者の渡辺さん



栽培されたキクイモ



キクイモの天ぷら

- 渡辺さんは震災前、水稻を営む農家でしたが、震災により避難を余儀なくされました。
- 平成25年より営農を再開し、現在は米や大豆、えごまを生産しています。また、機能性成分といわれるイヌリンが豊富に含まれている「キクイモ」を知人から紹介され、栽培を始めました。
- 渡辺さんのキクイモは、東京恵比寿にある割烹料理店や、岡山県の飲食店などと取引※されており、生で食べるとシャキシャキ、加熱するとジャガイモのようなホクホクした食感で大変好評です。「キクイモで地域を元気にしたい」と、渡辺さんはキクイモ生産に励んでいます。渡辺さんのキクイモは、町内の「よりあい処 華」（田村市都路町古道字新町67）でも召し上がれます。

※農業者が生産した農産物を、購入者に直接発送する支援メニュー「宅配企画」



発行 / 公益社団法人 福島相双復興推進機構(福島相双復興官民合同チーム)
編集 / 総務調整グループ広報課
〒960-8031 福島県福島市栄町6番6号 NBFユニックスビル4F
TEL: 024-502-1115

ホームページ
<https://www.fsrt.jp/>



公式フェイスブック
<https://www.facebook.com/kanmingoudouteam/>

